

## 古徳沼ことくぬまのしぜんをまもる

### 古徳沼

瓜連うりづらの古徳地区ことくちくにある沼。  
毎年まいとし、冬ふゆに白鳥はくちやうがあつまる。



冬の日曜日の朝です。

さとしは、夜が明ける前にお起きました。今日は、お父さんといっしょに、古徳沼に行くやくそくをしていました。

「寒いなあ。お父さん、本当に今から写真を撮りに行くの。」

「もちろんさ。このカメラ

でとると、きれいな写真がとれるんだ。早く用意をするんだぞ。」

お父さんは、カメラをなでながら、わらって言いました。



冬になると、古徳沼にはたくさんの白鳥が集まります。きらきらと光る水。真っ白な羽はねや足ひれを動かして、えさを食べる白鳥たち。よい写真をとろうと、県外からも多くの人がおとずれています。

さとしとお父さんは、沼に近づいてみました。

「わあ。白鳥がいっぱいいる。」

「びっくりしたかい。これで、百羽ひゃっぱはこえていると思うよ。でも、さい

しよは二・三羽わくらいだったんだ。」

「どうして、こんなにふえたの。」

さとしはふしぎに思って、たずねました。

「さいしよは、えづけにせいこうしたんだ。」

「ふうん。えさがほしくて、だんだん白鳥がとんで来るようになったんだね。」

「うん。でも、それだけではないんだよ。」

お父さんは、ゆっくりと歩きながら、あたりを見回しました。

えづけ  
えさをあげるこ  
と。



野鳥の写真

年号	羽数	年号	羽数	年号	羽数	年号	羽数	年号	羽数
昭和16年	2羽	昭和51年	74羽	昭和61年	142羽	平成8年	112羽	平成18年	126羽
42	3羽	52	67羽	62	148羽	9	96羽	19	135羽
43	5羽	53	56羽	63	148羽	10	160羽	20	153羽
44	10羽	54	71羽	平成元年	182羽	11	96羽	21	85羽
45	15羽	55	110羽	2	238羽	12	133羽	22	149羽
46	13羽	56	115羽	3	153羽	13	158羽	23	107羽
47	24羽	57	101羽	4	211羽	14	160羽	24	95羽
48	25羽	58	130羽	5	222羽	15	82羽	25	99羽
49	29羽	59	136羽	6	176羽	16	65羽	26	99羽
50	37羽	60	182羽	7	135羽	17	126羽	27	99羽

白鳥飛来数

「白鳥はね、とてもびんかな動物だよ。だから、あまり人の手が入りすぎないように気をつけて、かんきようを整えてい  
るんだよ。」

「なるべくしぜんに近いかたちで、きれいにしているんだね。」

「そうなんだ。那珂八景にもえらばれている場所だから、かん  
光地としても多くの人にきてもらいたいしね。人と自然が  
いっしょに気持ちよくすごせる場所を作っていくことが大切  
なんだ。」

さとしは、かん光きよう会の人がけいじしている、毎年の白  
鳥飛来数の表や野鳥の写真を見ながら、うなずきました。

写真を取り終えてちゅう車場に向かうと中、さとしは、木で  
できた階段を見つけました。

「お父さん、あの階段は何かな。」

見ると、沼のうら山へ歩いて行くことができるよう、きれい

な道ができていました。

「ああ、あれはね。静・古徳古道しず・こたくこどうと言せって、少し前に整せいびされたんだ。おじいちゃんがこの間、話をしていただろう。」

さとしは、おじいちゃんが新聞の切りぬきを見せながら、話をしてくれたことを思い出しました。

まだ、ざん暑しよがきびしい九月に、地いきの方の力をかりて、いっしょに草かりをしたり、のびたつるなどを切ったりしたこと。その後も、手入れをしてくださり、四年かけて整せいびしたこと。那珂市なかのかん光ガイド



整せいびされた静・古徳古道



ブックにさん歩道<sup>ほ</sup>として地図がのったことなど、おじいちゃんはうれしそうに話をしてくれました。

「山をあらさないことで、いのししのひがいもへって、沼<sup>ぬま</sup>のしぜんも守られるんだ。」

と、木々を見つめながらお父さんが言いました。

「うん。ぼく、あたたかくなったら、おじいちゃんとの道を歩いてみようかな。」

さとしは、ゆっくりと歩き出しました。

朝日にてらされて、古徳沼の水面<sup>みなも</sup>がきらきらと光り、白鳥たちの声がひびいています。